

逆くしゃみとは

チワワ、ポメラニアンなどの小型犬や短頭種のわんちゃんに多く見られます。
発作性呼吸とも呼ばれ、怖いもののように見えますが治療が必要なものではありません。



《原因》

ハッキリとはわかっていませんが、鼻咽頭への刺激がきっかけで起こることがあります。

- 興奮
- 飲食、特に早食い
- 温度の急激な変化
- 激しい運動
- リードの引っ張りによる喉への締め付け
- 鼻咽頭に入り込んだ異物
- 家庭用化学薬品などの香水および環境刺激物質、花粉、アレルギー物質、タバコの煙 等

《症状》

ズーズー、ゲージと音を立てて呼吸し、数回で収まることもあれば1~2分程継続することがあります。

くしゃみとは逆で、吸引するように見えます。吸引しているため鼻水が出たりすることはありません。

軟口蓋過長や感染、アレルギーが関与している可能性があると言われてはいますが、明確な原因は分かっていません。
しゃっくりのようなもの、とも言われています。

《治療》

呼吸器を検査しても異常が無く、治療の必要も無いとされています。

初めて目の前で逆くしゃみが起こると、「呼吸がおかしい！」と慌ててしまう方がほとんどです。

逆くしゃみなのか、他の呼吸器疾患なのか、その場では判別がつけにくいと思われます。

可能であれば、動画を撮影して獣医師に見てもらいましょう。

また、インターネットで「逆くしゃみ」「Reverse sneezing」と検索するといくつか動画がありますので、参考にしてみてください。

鼻に息を吹きかけると止まる、鼻の穴を塞いで口呼吸をさせると治まる、早く治めるツボがあるなど様々な説がありますが、そうこうしているうちに自然と止まり、本人はケロツとしていることが多いです。

飼い主さんが慌ててしまうとわんちゃんに伝わってしまいます。

わんちゃんを不安な気持ちにさせないよう、人の方が落ち着いて見守ってあげましょう。

気管虚脱と言う、気管の軟骨が弱って気管がつぶれてしまう疾患があります。

この場合も「ゲージ」という咳をすることがあり、逆くしゃみと見分けが付きにくいことがあります。

逆くしゃみだと思っていたがなかなか止まらない…とか、舌の色が悪い…などが見られる場合、気管虚脱や心疾患に起因する咳などの別の病態が疑われます。病院に相談しましょう。